

## パッションは天城を越えて

後藤隆徳

99年3月28日、御岳山は抜けるような蒼穹（そうきゅう）が広がっていた。今、滑って来た幾条のシュプールが誇らしげに光っている。2日後、50歳を迎える小田チャンは大きな目を細め、顔をクシャクシャにする。「小田チャン、いつも遠いところからご苦労様。これからも頑張ろう」



下田に住む小田知典さんと初めて会ったのは97年3月9日、会山行NO. 98、下田・寝姿山だった。会員の望月さんがSBS登山教室で知り合い紹介してくれた。初めて会った印象は「天真爛漫」「明朗実直」「大きな体躯」。その日はまだ緊張気味で、例の「駄洒落（墮?）」の連発はなかった。

海好きが下田に住むのは分かる。だが、山好きが下田では極めて困難。県外登山の場合、余りに遠い。裾野まで車で片道約80Km。時間にして約2時間。天城峠を2回通過し、往復4時間の労力を費やす。それでも往路はまだ良い。先日の焼岳は、とうとう「午前様」だった。帰路は疲れがあるだけに一人運転の負担は大きい。以前、三島労山に下田在住のIさんがいた。車は運転しないが早朝発、深夜帰宅の場合は、沼津の息子宅に泊まった。



また、小田チャンは商売（当時、中華料理店）があるので会社勤めのように簡単に休暇が取れない。山行計画は綿密に立て、休暇日はパートさんに仕事を依頼する。パートさんは2名お願いしており、一人が駄目の場合はもう一人に頼む。仕事柄、もろもろの下ごしらえをしなければならない。結果、出発前夜は遅くなり、早朝出発が多いわが会の場合、体調管理が難しい。

しかし、小田チャンは山に行く。山が大好きだ。出来れば毎週でも行きたい。取り巻く様々な困難を乗り越えて山に行く。それ故、ひとつ一つの山行は大切にしていた。仲間と会いたい。仲間と行く山は最高だ。

山は無論だが仲間との交流が大きな財産でそれが活動の支えになっている。無論、奥様のTさんの「内助の功」は言うまでもない。息子のSチャンの冷やかし(?)も大きな励みになっている。今冬は山岳スキーに燃えた。昨年谷川岳、平標山、八方尾根で仲間の滑りに触発された。今年山スキーを購入した。これまで富士山、乗鞍岳、焼岳、御岳山を経験したが、もっと上手になりたい。当面の目標は、皆とギンギンにシュプールを刻みたい。今夏は沢登りで豪快に「シャワーと沈（ちん）」を経験した。



笑顔が魅力な万年青年、可笑しい駄洒落、勉強家で雄弁、頼もしい体躯と底なしの飲みっぷり。そして、不遇の辺境（陸の孤島?）にありながら、先期13回山行に参加したパッション。そんな小田チャンに熱いエールを送りたい。小田チャンとは12年間付き合った。様々な思い出がある。鹿島槍東尾根は厳しくも面白かった。火打岳から笹倉温泉はサイコーの山スキーだった。伊豆里山ではお世話になり、毎日よく飲みました。店の焼豚は美味しかった。

下田で数年前から始めた「快体ハイク」は順調のようです。来期は退会予定だが、麗峰で学んだ様々なノウハウ・人脈を生かして大きく育てて欲しいものです。また何処かで会いましょう。長い間、ご苦労さまでした。そしてありがとう。

(2009. 12. 10)